

ニュース

ミツバチの法定伝染病一部改定

当施設に東京都家畜保健衛生所防疫係から事務連絡として、家畜伝染病予防法の一部改正(特に蜜蜂の疾病)についての文書が届いた。これによれば、4月1日より家畜伝染病予防法の一部改正に伴って、法定伝染病の腐蛆病の他に、届出伝染病として①チョーク病、②ノゼマ病、③アカリン病、④バロア病の4疾病が加わることになった。届出伝染病は、法定伝染病とは別に国が省令で定めるもので、該当する病気の発生が認められた場合には都道府県知事あて届出が義務づけられる。疑わしい症状が出た場合には、最寄りの家畜保健衛生所に連絡し、病性鑑定、届出、疾病対策を行ってもらうことになる。なお、本誌次号に新たに届出伝染病として追加された4疾病の解説を掲載する予定。

国際社会性昆虫学会 IUSSI

今年末(12月29日)から新年(1月4日)にかけてオーストラリア、アデレード市のアデレード大学を会場に開催される標記の学会の第2回学会案内が届いている。会期中に予定されている特別講演は6題、シンポジウムは30を超える。大会登録および発表申込み期限は9月1日(ただし発表要旨は電子メールでの受付となる、宛先 IUSSI@flinders.edu.au)。

訃報 ミツバチ分類学の権威 ルットナー博士

Friedrich Ruttner 博士が2月3日に逝去された。博士はウィーン大学で生物学博士号を取得後、1965年にはドイツのフランクフルト大学教授、オベルゼルのミツバチ研究所所長となり、ミツバチの遺伝、分類、人工授精、配偶行動など広い分野にわたる研究で成果を残した。フランスのルーボー博士と共に学術雑誌 *Aidologie* を刊行、*Apimondia* ではミツバチ生物学分科会を率いてきた。1981年に引退したオ

ーストリアのルンツに居を移して後も、後世に残るミツバチ関連書を数多く著し、一生をミツバチと養蜂のために捧げた。その業績をたたえ、ご冥福をお祈りしたい。

研究施設から

小野助教授が留学

当施設の小野正人助教授が4月より1年間の予定でカナダのサイモンフレーザー大学に留学し、化学生態学の第1人者である Sressor 博士のもとでマルハナバチの情報化学物質などの研究を行う。

なお、出発前に企画に携わったマルハナバチ関係の特集が2冊同時に刊行された。遺伝(養賢堂)5月号「外来生物と生物多様性の危機」と昆虫と自然(ニュー・サイエンス社)5月号「マルハナバチ」の特集で、いずれもそれぞれの分野の先端研究者が著者として顔を並べ、一読の価値のある特集となっている。

「ニホンミツバチ」連載の合本販売

18巻1号から始まり前号で連載終了した当施設吉田教授による「ニホンミツバチ—生態とその飼育法」5回分が合本された。販売窓口はアジア養蜂研究協会、頒布価格は1冊1000円、送料別。

編集後記

アジア養蜂研究協会大会の疲れからか、はたまたミツバチの春の勢いがよすぎたからか、思いがけず今号の刊行が遅れてしまい、読者の方に多大なご迷惑をおかけしたことをまづお詫したい。プロボリス特集は総論的なものが多くなったがそのこと自体この生産物が多面的で複合的あることを如実に表わしていよう。菅原・筒井両氏のランは写真も見事、カラーでお見せしたかった。拙文「インターネットのミツバチ」はしばらく連載予定、覗いてみたいご要望があればどうぞ。(純)